
平安霧花

西園寺 悠里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平安霧花

【Nコード】

N4715Y

【作者名】

西園寺 悠里

【あらすじ】

ある日、マンションの上階から落ちた主人公藤原撫子ふじわらなでしこは、気付くと過去へとトリップしていた？

時代はなんと平安時代！貴族達の世界に、未来から来た少女が波紋を起こす。

色んな殿方に言い寄られてみたり、帝からも求愛されたり…。

彼女が過去で選ぶ道は？

ブログ 全ては落下から（前書き）

これは、フィクションです。

時代に基づく部分もありますが、登場人物などは架空に基づくものであり、実在する名前などとは一切関係ありません。

どうぞ、お楽しみください。

ブローグ 全ては落下から

此処は、何処だろう？

目が覚めると、全く知らない場所にいた。

「何故だろ…？さっきまで私…家の前にいたハズなのに…？」

目の前は真っ黒な世界。

見覚えが無いどころか、恐怖すら感じてしまう。

”ズキッ”

突然、頭を激しい痛みが襲った。

「痛いっ！」

その瞬間、ある事を思い出した。

「そうだ…私…」

——落ちたんだ——

…*…

……*…

彼女、藤原撫子は有名な読者モデルだった。その美貌と頭の良さから、テレビなどでも引っぱりだこである。もちろん、そんな彼女には、世間でいう、「ストーリーカー」なるものも付く訳で。

この日も彼女の背後には人影がいた。いつもの事であつた為か、油断していたのだ。

今までのストーリーカーは、マンションの前で帰っていたから。きつと今日も大丈夫。彼らはボディガードに似たようなポジションにいるだけ。そう、思っていた。

今日はいつもと違う。そう確信したのは、エレベーターの前に来た時だった。エントランスの中まで入って来た後、階段を登ってい

ったのだ。私がエレベーターに入るのを見計らって。

エレベーターに乗ると、慌てて、鞆から家の鍵を出した。上についたら、直ぐに走って行って家に入ろう。そう、心に決めて。

エレベーターが止まると、案の定、ストーカーは近くの階段の前にいた。余り刺激しないように、平静を装いエレベーターを出た。そして、方向を変えると走り出した。

家の鍵を開けた所までは良かった。しかし、追いついてきたストーカーは彼女の手を引き、自分の方へと引き寄せた。バランスを崩した彼女はフェンスへ身を預けようとし、ある事へ思い立った。――私はどうして、今日は珍しくエレベーターを使ったんだっけ？そうだ…階段周りや廊下のフェンスが緩んでいるって回覧板が回って来たからだ――

気付いた瞬間、彼女の身体は宙へと投げ出された。慌てて手を伸ばしたがその手はストーカーによって振り払われた。

落ちていく瞬間、「君はこれで僕のモノだ」そう、ストーカーが呟いた、気がした。

…*・・

・。。・::。。。。

「そうか…私…落ちたんだ…」

じゃあ死んだのだろうか？死後の世界って、こんな感じなの？

そんなことを考えていると、段々眠くなってきた。瞼が閉じそう

だ。
そんな自然的欲求には抗えるハズもなく。諦めて、本能に任せることにして目を閉じた。

そして、目を閉じて直ぐに、意識はより深い闇へと落ちて行つた。誰かに呼ばれた、そんな気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4715y/>

平安霧花

2011年11月17日17時46分発行